

二柱の天照大神と饒速日尊にぎはやひのみこと

開化天皇の世界統一の神業は、明治維新を巻き込み、高熊山修行から三十五年前一八六三年から始まった！

(中編一九)

大阪中央分苑 出口 恒

開化天皇の神業は

文久三年から始まった

開化天皇の御神業が文久三

年、一九六三年に始まると私は

『神の国』誌十月号で記載しま

した。その根拠は、弟が私に教

えてくれたのですが、『霊界

物語』十九巻、第一章高熊山謡

曲調)にあります。

若男「嗚呼吾は空行く鳥なれ

や。遙に高き雲に乗り、地上の

人が各自に、喜怒哀楽に捉はれ

て、手振り足振りする様を、吾

を忘れて眺むなり。実に面白の

人の世や。然れども余り興に乗

り、地上に落つる事もがな。嗟

大神よ大神よ、千代に八千代に

永久に吾身を守らせ給へかし」

と唯一筆の落し書、賤が伏家に

遺し置き、松樹茂れる山の口、

洋服姿の松岡神使、俄に白髪異

様の神人と変化し、男子が手を

把り、林の茂みをイソイソと、

進んで此処に如月の、九日の月

西山に傾きて、再び閉ざす闇の

幕、千丈の岩窟の前に着きにけ

り。松岡神使は男子に一礼し、

神使、此処は名におう、高天原

の移写と聞えたる高熊山の岩窟

(図一)にて候、天地百の神たち

の、時有つて神集いに集い給

う、四十八個の宝座あり。吾は

これにて袂を別たむ。汝は此処

に現世の粗き衣を脱ぎ、瑞の御

霊の真人として、五六七の神業

に奉仕せよ。さらばさらば」と

云ふかと思れば、姿は消えて白

雲の、彼方の空に幽かにたなび

く訝かしさ。男子は忽ち

ち身体硬化し、時間空

間を超越し、寒暑の外

に立ちて、何時とはな

しに身変定の、今の姿

と白装束、黄金の翼身

に備へ、一道の空に輝

く光の架橋、矢を射る

如く天の八重雲切り抜けて、須

弥仙山の頂上に、早くも其身は

立ちにける。白馬に跨り、白雲

別けて駆来る一人の神人、男子

の前に立ち現はれ、馬を乗り棄

てツカツカと立寄り、男子の左

手をシツカと握り、明神、われ

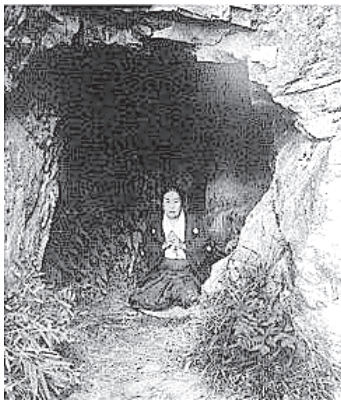
は小幡大明神なり。此度五六七

の神世出現に際し、天津神国津

神の依さしのにまに、暫時丹

州と現はれ給ふ汝が御霊、現幽

神三界の探険を命じ、神業に参



図一 大本開教
聖師高熊山岩窟で修行

加せしめよとの神勅なれば、三十五年の昔より、木の花姫と語らひて、汝が御霊を拝領し、我が氏の子として生れ出でしめたり。ゆめゆめ疑ふ事勿れな、「高熊山』霊界物語』十九卷一章」。



図二 開化天皇を祭る
小幡神社の本殿

明治維新は開化天皇の仕事

大本教の眞の開教が、明治三十一年、一八九八年旧二月九日、聖師高熊山修行初日となります。穴太の小幡神社 図二この御祭神、小幡大明神としての開化天皇が、五六七神世出現に際し、上田喜三郎に弥勒神業五六七に参加させよと神勅を下したのは、三十五年の昔より、木花姫、すなわち「この鼻」姫である素盞鳴尊と語らったことによるもの。明治三十一年から三十五年

の昔とは、一八六三年（文久三年）。実際の聖師の生年一八七十年旧七月十二日（推定）より遡ること七年、そして一八六四年の禁門の変、一八六八年に起こった明治維新を遡るのです。なお、白髪異様の神人と変化する松岡神使は、小松林命と同神であり、みろくの神の別名となります。
穴太の産土様は稚日本根子彦大日日命おほひひのみことである。若き日本の

根本の神様ということだから、開化天皇はおくり名である。世界を統一される神様である。王仁は今、開化天皇の御神業をやっているのである（「開化天皇の御神業』新月の光』下巻）。

私（聖師）がこの神様の氏子と生まれ、綾部の地の高天原に参上り、弥勒神政成就の御用を

さしていただいているのも、決して偶然ではないということが

首肯しゅくけんされるのであります。「大

正八年十二月一日号』随筆」。

大毘毘おほびびの 神の命のあれまさむ

世は近づきぬ この地の上に

（「開化天皇の御神業』新月の

光』下巻）。

聖師の随筆』は『霊界物語』

の十九卷、高熊山」と対をなし

ていますし、木花姫である素盞

鳴尊と語らった開化天皇の御神業とは、五六七神業と同じであり、世界統一の神業であることがわかります。聖師による五六七神業の継承者は、左記のごとく示されています。

弥勒神政の神業に奉仕する

十和田湖の龍神

『月鏡』十和田湖の神秘を讀

んだものは誰も知っている如

く、湖の主が昇天の時、王仁に

約束した言葉がある。「再生の

時は大本に生れて参ります」

と。……元来は王仁の子となつ

て生れる筈であつたが、それが

出来なかつたので、八重野が生

まして貰った和明やすあきがそれであ

る。十和田の竜神の再生である

から十和田の和をとり明は日と



図三 平成二十年青森ねぶた
十和田湖幻想「南祖坊と八之太郎」

月で神を表はす積りで斯く命名したのである。王仁をばかり慕^{した}つて、父親はそつちのけで聖師様聖師様とつけ纏^まふ。霊の因縁は不思議なものである。編者申す、『月鏡』十和田湖の神秘』には、左の通り示されてあります。

前略、かくて男装坊 南祖丸 南祖坊)は三熊野三神、別けて神素盞鳴尊の神示によって弥勒

の出現を待ちつつありしが、天運茲^{こゝ}に循環して昭和三年の秋、四山の紅葉今や錦を織らむとする頃、神素盞鳴尊の神示によりて爰^{こゝ}に瑞の魂十和田湖畔に來り、弥勒出現の神示を宣りしより男装坊(図三)は欣喜雀躍、風雨雷鳴地震を一度に起して徴證を示しつつ、その英靈は天に昇りたり。それより再び現界人の腹を藉^かりて生れ、男性となりて弥勒神政の神業に奉仕する事とはなりぬ。嗚呼神界経綸の深遠にして宏大なる到底人心小智の窺^き知し得る限りにあらず、畏しとも畏^{かし}き次第にこそ。惟神靈幸倍坐^{かんながらたまちはま}せ。

「大毘毘の神の命の地上にあれまさむ世は近づきぬ」

これは、開化天皇の世界統一

の神業の完成が近いことを示しており、私は、これらの文脈の開化天皇も、瑞靈そのものではないかと考えています。

土の上に立つた明治維新

九月八日の仕組み

一八六八年に成し遂げられた明治維新は、日本の完全統一が成つた、日本が「土の上に立つた」、戊辰年の開化天皇の御神業の一環ではないかと考えます。そして明治維新の日付は九月八日であり、これが神の仕組みであることを暗示させます。次に土の上に聖師が立つのは、戊辰年、昭和三年三月三日、一九二八年、聖

師が五十六歳七ヶ月になるみろく大祭の年です。

江戸城無血開城

勝海舟の『氷川清話』

平安京最後の天皇、孝明天皇は「公武一和」のために和宮降嫁を、という幕府の申し込みを拒否しました。和宮(図四)には有栖川宮熾仁親王という婚約者があり、和宮を夷人が跳梁跋扈する関東の地に行かせるのが不憫と考えたのでしよう。万



図四 皇女 和宮親子内親王

延元年（一八六十年）六月二十日、天皇はやむなく、幕府が攘夷を約束するなら」という条件付きで徳川家茂への降嫁を認め、和宮は江戸城に向かうことになったのです。

江戸城無血開城への秘話は、勝海舟が『氷川清話』で述べていますので、引用します。

旧幕府軍と薩摩・長州の連合軍との間の鳥羽・伏見の戦い（一八六八年一月二十七日〜三十日）は、兵力で三倍もある旧幕府軍が敗北し、勝った薩長を中心とする新政府軍は「官軍」と名乗ってさらに江戸へ東征を開始します。この新政府軍の東征軍の総大将的役割を果たしたのが東征大総督 有栖川宮熾仁（府下参謀）に任命された西郷隆

盛でした。それに対し、新たに陸軍総裁となつて旧幕府側の代表として対峙 することに なつたのが勝海舟でした。

そんな勝海舟が江戸開城のいきさつについてつぎのように語った談話が『氷川清話』です。「あの時、おれはこの罪もな い百万の生霊を如何しようかということに、一番苦心したのだが、しかしもはやこうなつては仕方がない。ただ至誠をもつて利害を官軍に説くばかりだ。官軍がもしそれを聴いてくれれば、それは官軍が悪いので、おれの方には少しも曲つたところがないのだから、その場合には、花々しく最後の一戦をやるばかりだと、こう決心した。それで山岡鉄太郎が静岡へ

行つて西郷に会うというから、おれは一通の手紙を托けて西郷へ送つた。……（西郷が）向うから会いたいといつて来た。そこでいよいよ官軍と談判を開くことになつたが、最初西郷と会合したのは、ちょうど三月十三日で、この日は何もほかの事は言はずに、ただ和宮の事について一言いつたばかりだ。」

そしてさらに翌日に再び勝海舟と西郷隆盛との会談が持たれ、そのときに西郷がいうには「委細承知致した。しかしながら、これは拙者の一存にも計らい難いから、今より総督府へ出掛けて相談した上で、なにぶんの御返答をいたそう。が、それまでのところ、ともかくも明日の進撃だけは、中止させてお

きましよう」と言つたので江戸は戦火から免れることになつたとしています。（江藤淳・松浦玲編『氷川清話』（講談社学術文庫）。

西南戦争の原因となる

おいどん西郷隆盛の征韓論

出口王仁三郎聖師の戸籍上の

出生日、七月十二日から二日後

の明治四年旧七月十四日、廃藩

置県が実施され、日本では大名

などの領主が一掃されました。

これがすべての土地に賦課して

一定の金額を金納させる一八七

三年の地租改正としての租税制

度改革を可能にしました。この

改革により日本にはじめて土地

への私的所有権が確立しました。

日本は封建社会から近代化に

向かったものの、旧藩閥同士の政争や、特権や経済基盤を失った旧士族の不満が強まり、そのような中、征韓論で大久保利通や岩倉具視に敗れた西郷隆盛たち薩摩藩閥の官僚、軍人が辞職して帰郷、西郷隆盛が開いた私学校が反政府運動の中心となりました。西郷は私学校を中心とする不平士族におされて挙兵し熊本城を攻めましたが、徴兵令により集めた政府軍に敗れ、鹿児島島の城山の戦いを最後に西郷隆盛軍の指導者は戦死、自決、明治政府に対する最大の反乱は鎮圧されます。西郷隆盛が七卿のひとり、三条実美太政大臣に、西南戦争の原因となった征韓論を説いた記録を掲載します。

「大政大臣な、とくと聞いてくだされ。今の大政大臣な、往昔の大政大臣でなく王政復古明治維新の大政大臣でござす。日本を昔からの小日本で置くも、大神宮の神勅通り大小広狭の各国を引寄せて、天孫のウシハギたまうところとするも皆オハンの双肩にかかつており申すでござんす。日本もこのままでどこまでも島国の、日本の形体を脱出することはでき申さぬ。今や好機会好都合でござすので、ヨーロッパの六倍もあるアジア大陸地に足を踏み入れて置きませんと、後日大なる憂患にあい申すぞ。朝鮮と清国とはコケおどかしで決して恐れるには当り申さん。ロシアは国民の耳目を外国に反らさせる事を終

始いたし申さんでは自己の身体が危ないのでござす。大兵を出して、日本を征するなんということとはとてもできません。今オイドンが言う事を御聞きヤラんと、後日この倍もそのまた倍も骨が折れ申す。そしてどう骨折つてもオイドンが今言うことせんわならん。どーござす、どうでもこうでも、日本の神慮天職でござすけん、結局朝鮮を外垣にして、後に朝鮮を策源地とし申して露西亞と手を引き合う事になり申す。……オハンな、オイドンよりか十二も年下じやけん、オイドンより後へ生き残りましゆで、ただ今申した事はよー覚えてよつてくだはれ

の『神靈界』。

奇兵隊の天皇、そして薩長同盟
明治維新の最大の功労者は、江戸城無血開城を仕組んだ西郷隆盛であり、錦の御旗のもと、東征大総督有栖川宮熾仁に参謀として仕えたものでした。そして西郷隆盛が西南戦争で戦った官軍の征討総督とは、かつての上官・最高司令官、有栖川宮熾仁であり、恩讐を超えて二人の心情はいかばかりであったでしょう。熾仁親王は西南の役戦勝の功績により、陸軍大将となり、明治十五年には天皇の名代としてロシア皇帝の即位式に列席、日清戦争では陸海全軍の総参謀長となり、公式には明治二十八年一月十五日、病没した

とされますが、出口禮子は、有栖川宮熾仁親王は、品川御殿で割腹自殺をされたことを、大嘗会の執綱を務める家柄である阿刀家の阿刀弘文氏から人を介して突き止めています。

大室寅之佑を睦仁親王であると世間を騙し、偽りで開いた明治維新。そこでは睦仁親王も徳川家茂も、あるいは和宮さえも犠牲になった。しかし明治革命の中でひとり真実を暴露しようものならば、熾仁親王は大室寅之祐になり代わり天皇として即位し、国を統治しなければならぬ。その場合、不平武士も加わり、国内内戦は必死で、そこに外国が介入してくるでしょう。その他、私たちの知らないさまざまなことが、有栖川宮割

腹の真実と考えます。熾仁親王の事績で注目値すること、明治二十四年十二月二十八日に伊勢神宮の齋主となつたことです。

慶応三年七月十九日、睦仁親王の祖父・中山忠能日記には、「明治天皇を、奇兵隊の天皇」と記しています。また明治四十二年、伊藤博文をハルピン駅頭で射殺した韓国の壮士、安重根は、その斬奸状の中で伊藤博文の罪状十五条を挙げた最初に「一八六八年、明治天皇陛下に、一八六八年、明治天皇陛下に、父太皇帝陛下（孝明天皇）大逆道の事」と書いています。薩長同盟は徳川家茂を殺し、孝明天皇、睦仁親王を暗殺して長州藩が匿う大室寅之佑という、南朝血統とされた玉、長州

力士隊出身の、騎兵隊の天皇を立てるといふ、いわば南朝革命の薩摩と長州藩の約束であり、薩摩から長州への武器の供給も含み、グラバーなどの資金援助を含んだ倒幕のための同盟であつたのではないだろうか。

有栖川宮熾仁親王幽閉中に
行われた孝明天皇し弑逆
孝明天皇弑逆には、有栖川宮熾仁は関わっていたか。出口禮子の説を借りて記します。「天皇すり替えは、熾仁が大室寅之佑を睦仁親王と認めなければ成り立たない。熾仁が維新政府の初代総裁として無言で玉を支えたからこそ、偽と知りつつ公卿たちは沈黙を守つたのだ。有栖川父子は親長州派の皇族と

して、八・一八の政変にも、禁門の変にも命をかける覚悟で追い落とされた長州藩を弁護している。宮中で中川宮朝彦親王とも激論に及んだ熾仁親王である。そのため一筋に公武合体を願う孝明天皇の怒りを買つた。

『有栖川宮熾仁行実』によれば、熾仁親王は、政変の数日後、烏丸光徳など三公卿が熾仁親王を因州に移し、尊王諸藩と気脈を通じて一挙に蜂起する計画を練り、これを親王に言上したが、親王は政局が予測できぬこの折、あくまで君側を離れず、尊王に尽くす決心であると述べたため、沙汰止みになつたと言ふ。一八六三年（文久三年）八・一八の政変の十日後、廿八日に



図五 フルベッキ写真に写る西郷隆盛と勝海舟、大室寅之助

朝議は親王父子の国事御用掛を解任し、宮中参内、外出、他人との面会を禁じました。この閉門措置は足掛け四年に及ぶ。そして慶応三年一月十五日、大赦によって熾仁親王が幽閉を解かれたときには、すでに孝明天皇は崩じていた。十一月号本誌に掲載した慶応元年（一八六五年）撮影と推定される四十六人のフルベッキ写真に四十七番目、あるいは一番目として有栖川宮熾仁が入っていない。川宮熾仁が入っていないのは、親王という立場から当然ですが、閉門措置により蟄居の身で孝明天皇暗殺などに関わっていないことがありません。長州藩の品川弥二郎が西郷隆盛の頼みではじめて河原御殿を訪ねたのは、慶応三年十二月九日（一八六八年一月三日）の、王政復古の後の十二月十七日であり、西郷も桂小五郎も面談がまだできていない時機であり、彼らが内勅を報じて事を挙げると熾仁に打ち明けたのは、鳥羽伏見の戦いの三四日前だと品川弥二郎が証言しています。それでも我が頼りとするのは熾仁親王ただひとりと品川は言葉を強めて説

得し、熾仁親王は維新政府の総裁を引き受けました。

なお先月号掲載のフルベッキ写真には中央に、刀を肩に差した日本人の少年らしき姿があり、そこに明治天皇と説明書があつたことについて違和感を持たれた方がおられると思います。一八六三年八月十八日の政変で公武合体派に破れて失脚した公卿、三条実美たち七卿は、フルベッキ写真の中央に位置する後の明治天皇、南朝後醍醐天皇の後裔とされる大室寅之佑の故郷田布施で、南朝天皇の復活を画策し、その意図を受けて維新の志士たちは倒幕を企てフリーメーションであるフルベッキ（図五）の元に結集します。「幕末維新の暗号」加治将一（祥伝

社）等参照）。

七卿の都落ちが開化天皇

御神業の始まり

八月十八日の七卿の都落ちのあつた一八六三年が、「開化天皇の御神業」の初年に当たり、翌年の一八六四年の禁門の変から、有栖川宮熾仁、大室寅之佑など主要な役者を巻き込み、開化天皇の御神業、世界統一の神業の幕が本格的に上がるのです。その仕掛けは、聖師の戸籍上の出生年、一八七一年に遡ること千年『十和田山神教記』および聖師の「十和田湖の神秘」に記載される貞観十三年の綾小路関白藤原是実の都落ちからなされてきたものかもしれません。孝明天皇暗殺は、有栖川宮熾

仁親王の閉門措置を奇貨とし

て、岩倉具視と伊藤博文により

なされました。明治維新後、徳

川慶喜の依頼により、幕末に大

阪城定番を務めた渡辺平左衛門

草綱は、犯人が岩倉具視と伊藤

博文であることを突き止め、そ

のために伊藤博文に命を狙わ

れ、長州の刺客に稲佐橋の近く

で命を狙われ重症を負いまし

た。その平左衛門の遺言では、

慶応二年旧十二月二十五日一

八六七年一月三十日）、孝明天

皇は瘡瘡も快癒し、愛人の堀川

紀子の邸を訪ねたが、伊藤博文

が中二階の廁に忍び込み、手洗

いに立つた孝明天皇を床下から

刺し、邸前の小川の水で刀と血

みどろの腕を丁寧に洗っていました。

西郷隆盛こそ一等星

さて、出口王仁三郎聖師はそ

の父、有栖川宮熾仁の参謀とし

て江戸城無血開城を為し遂げ、

また西南戦争で征討総督有栖川

宮熾仁と戦った西郷隆盛をどう

評価したのでしょうか。

大島から鹿児島へと、今度の

旅行で西郷南洲翁の跡を訪ねて

みたが、翁には惜しいかな奇

魂が足らなかった、と言う事

を痛感せずにはおれなかった。

天下に号令しようとするもの

が、陸路兵を起して道々熊本を

通過して東上せんとするなどは

策の最も拙なるものである。か

の時急遽兵を神戸大阪に送っ

て、名古屋以西を扼して仕舞は

ねばならぬのであつた。当時物

何でもなくできた事なのであ

る。かくて京都、大阪などの大

都市を早く手に収めねば志を伸

ぶる事ができない事は火を観る

よりも明かな事であつた。しか

るに事ここに出でずして、熊本

あたりに引つかかつて、愚図愚

図していたものであるから、事

志と違い、思いもよらぬ朝敵の

汚名を一時といえども着ねばな

らぬようになってしまったので

ある。……大嶋に滞在中、三回

ばかり西郷翁の霊にあつたが、

いろいろ私に話をしておつた。

「智慧が足らなかつたなあ」と

言うてやつたら、「全くやり方

が悪かつた」と言うておつた

（「奇魂の足らなかつた南洲翁」

「水鏡」）。人間が墮落して奢侈淫逸に流



図六 王仁三郎聖師の父
有栖川宮熾仁親王

れた時、自然なる母は、その覚
醒を促す為に、諸種の災害を降
したまうのであつて、しかも地
震はその極罰である。我国に地

介、大塩平八郎乃至、西郷隆盛
の如き皆、この人震に属するも
のである（「日本人の抱擁性」

（二）『靈界物語』十一卷六章）。
空の星を見て居る位楽しい事
はない。各自の星が皆空にある
のであるが、今の世の中の人々

岩戸開きとしての明治維新。自
然なる母は、その怒りを、大地
震を起こさなかつた代わりに、
西郷隆盛という人震を西南の役

震の多いのも神の寵児なるが故
である。自然否天神地祇の恩

素盞鳴尊はやむを得ずして、
天下のために大気津姫神を殺

の星は、多く暗星だから、光を
放つていないから見えぬ。大臣

という形で起こしたのです。西
郷隆盛に立ち向かつたのは出口

寵を被る事の多いだけ、それだ
けにその恩寵に背いた時の懲罰

第一義となしたまうたのであ
る。西郷南洲翁は、政とは情の

居ない、歴史上の人物で豊臣秀
吉即ち太閤さんは一等星の人で

仁親王（図六）。神は偽悪だ。悪
に見せて大善をなす（「神は偽

は一層烈しい道理である。もし
地震が起らなければ、人震が発

一字に帰すると断じ、また孟子
は、人に忍びざる心あれば、こ

が一等星であつた。其後一等星
の人物は出て居ない（「空の星

善も悪も、すり鉢の中の味噌
にすぎないのでしよう。世界の

りてその忿怒を漏らすに至る。
近くは天草四郎や由比民部之

こに人の忍びざる政ありと言つ
ている。しかる

に為政者は、果
してこの心をも

師の神業にさらに迫りたいと考
えていきますので、次号もご期待

は、人に忍びざる心あれば、こ
こに人の忍びざる政ありと言つ

つて、これに立
脚して社会改良

に、聖師は三つ葉葵が象徴する
バラモン教が、事実上支配する

幕と天岩戸の秘密』月刊ムー』
二〇〇四年十二月号総力特集

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段

るであらうか。
（「大気津姫の段